

海 軍

八年前三時二十五分龍艇手教練ヲ終リ各艇
 佐世保ニ帰港中午前四時頃太之島ノ一八〇
 度六埋附近ニ於テ友鶴ヲ見失ヒ龍田、第二土
 駝逐隊、第二土水雷隊及飛行艇ヲ以テ附近海
 面ヲ搜索中午後二時神島燈台南ニ五沖頃
 平瀬ニ頭覆浮流ニソワアルヲ発見目下救難手
 配中曹難者多数一見込

③

0393

保期	3	20	永
保期	發付迄	完結迄	永
保期			

綴書類

昭和九年三月十三日起案

起案者捺印

月

日發付

發付掛捺印

發付後起案者捺印

起案部
主務部
取扱者捺印

(主) 軍務局長

第一課長

副官

書記官

大臣

次官

副官

書記官

志岐

局部	官房	軍務	人事	教育	軍需	醫務	經理	建築	法務	航空	艦政	軍令
	三三三											
		三二二										

昭和九年三月

佐鎮副官宛

電報

本日附野村大將ヲ委員長トシ友鶴遭難事件査問

三月十三日午後四時三十分(無線)發電済

官房第六七番電

毎

頁

523

0394

會組織セラル

尚貴村西尾中佐同委員ヲ命セラル

(終)

0395

永	3	20	永
水	發付迄	完結迄	水
保期	機期	機期	保期

紙書類

昭和九年三月十四日起案

起案者 捺印

天野

月

日發付

發付掛 捺印

主務局、部
取扱者捺印

起案部紙(印)

發付後起
案者捺印

天野

(主務) 軍務局長

第一課長 局員

副官 岩村

大臣 次官

書記官

電報

昭和九年三月 日

軍務局長

局部	官房	軍務	人事	教育	軍需	醫務	經理	建築	法務	航空	艦政	軍令
	三一〇											

各領(佐ヲ除ク)各要參謀長
各艦隊 參謀長
練習艦隊 駐滿海軍部司令官

友鶴ハ轉西復ノ終竟田之ヲ曳航十三日午後

號番

承

三月十四日午後七時二十五分(無線)發電済

平澤

593

十四日午前五時迄

海

員

八時入渠生存者下士官兵一三ヲ救出死体一七ヲ収
 容セリ行衛不明准士官以上〇下士官兵七
 十二日以來船舩及航空機ヲ以テ遭難地附近
 海面ヲ搜索中ナルモ未ダ何等ノ発見セラレズ
 十三日野村大將ヲ委員長トスル査問委員会
 組織セラル

(3)

2680

保期	3	20	永
發付迄		完結迄	永

警類

昭和九年四月二日起案

起案者捺印

昭和九年四月五日發傳

發傳者捺印

案者捺印

主務局部

起案原紙(甲)

(主) 軍務局長

副官

大臣 次官

書記官

杉田

軍令部

副官

總長

次長

昭和九年四月

關係各所屬長官

海軍次官

電報

一、查向會調查、結果友鶴遭難、原因、艇、操縱保

官房機密第一三二號

四月 五日午前〇時〇分(無誤)

154

軍令	艦政	航空	法務	建築	經理	醫務	軍需	教育	人事	軍務	官房	局部

安其、他實施者及建造所側ニ過誤ナク主トシテ、船ノ建
 造改造ノ計畫ニ欠陥アリ而シテ右計畫上ノ欠陥ハ重心
 点高キコト、動揺慣性大ナルコト、フレインゲル及ダイナミカル
 スタビリティーニ対スル見込充分ナラザリシコトニ存スト認メラレタリ。

二、右事態ニ鑑ミ此、際加藤海軍大将ヲ委員長トスル、
 臨時艦艇性能調査會ヲ組織セラレ既成未成艦艇ノ

安定性ニ関シ再検討ヲ行ヒ必要ニ應ジ急速改造ノ方針
 ニ決定セラレタリ

三、今次事件ニ際シ艦艇ノ安定性ニ関シ疑惑ヲ惹起セルハ

事情洵ニ已クツ得ナル所タル右ノ次第ニ付此ノ際艦船乗員

士氣ノ振作等ニ関シテハ万遺憾ナキヲ期セラレ後海軍

(終)

各所局長等ニ宛テ(行)

昭和九年四月五日 發布濟

起案野紙(乙)(花崎箱)

海

宣

極秘

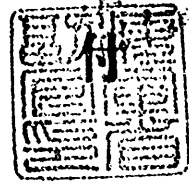
寫

軍務局

官房機密第一二二番電

昭和九年四月五日

四月五日



海軍次官

關係各所屬長官宛

第一課長 局員

矢野

- 一、査問會調査ノ結果友鶴遭難ノ原因ハ艇ノ操縱保安其ノ他實施者及建造所側ニ過誤ナク主トシテ艇ノ建造改造ノ計畫ニ缺陷アリ而シテ右計畫上ノ缺陷ハ重心點高キコト、動搖慣性大ナルコト、「レーンヂ」及「ダイナミカルスタビリティ」ニ對スル見込充分ナラザリシコトニ存スト認メラレタリ
- 二、右ノ事態ニ鑑ミ此ノ際加藤大將ヲ委員長トスル臨時艦艇性能調査會ヲ組織セラレ既成未成艦艇ノ安定性ニ關シ再檢討ヲ行ヒ必要ニ應ジ急速改造ノ方針ニ決定セラレタリ
- 三、今次事件ニ際シ艦艇ノ安定性ニ關シ疑惑ヲ惹起セルハ事情洵ニ已ムヲ得ザル所ナルモ右ノ次第ニ付此ノ際艦船乗員士氣ノ振作等ニ關シテハ萬遺憾ナキヲ期セラレ度依命

0060

(終)

10401

保期	3	20	永
保期	發付迄	完結迄	永

級書類

昭和九年四月二日起案

月 日發付

起案部紙(甲)
主務局部
取扱者捺印
發付後起
案者捺印

(主) 軍務局長

大臣 次官

副官

書記官

軍令部

副官

總長

昭和九年三月

在外大臣

四月五日午前〇時〇分

海軍次官

一、友鶴遭難原因、査問會調查結果艇操縦保安

官房機密第一二二一番

軍令	艦政	航空	法務	建築	經理	醫務	軍需	教育	人事	軍務	官房	局部
9.1.4												

海

軍

又建造所側ニ過失ナク五トシテ建造改造ノ計畫ニ具備
アリシモノト認メシタリ

ニ右ノ結果ニ鑑ミ此ノ際加藤 ~~大將~~ 大將ヲ委員長トシ臨時
艦艇性能調査會ヲ組織シ既成未成艦艇ノ安定性

ニ関シ再検討ヲ為シ必要ニ應ジ急遽改造ヲ行フコトニ
方針決定セラル

三 部外ニ非シテハ必要ニ應ジ機宜第一號ノ範圍内ニテ應
取セラル差支ナシ

(後)

0403

上
巻

海
防

0904

関係	保期	3	20	水
関係	機期	(發付迄)	(完結迄)	水
関係	機種			

綴書類

昭和9年3月12日起案

起案者捺印

月 日 發付捺印

發付後起案者捺印

主務局、部取扱者捺印

起案者捺印

() 單務局長

○ 〆

局長

○ 〆

大臣 次官

書記官

副官

○ 〆

○ 〆

寫一保夜

○ 〆

上奏

(案)

昭和九年三月十三日

午前十一時

二重小雷艇友船遭沈付文上致ス

佐世保鎮守府司令長官、報告

佐世保警備隊、滝田及才三十一水雷

號番

臣

軍令	艦政	航空	法務	建築	經理	醫務	軍需	教育	人事	軍務	官房	局部

國神隊を復讐す少将 後年 下り 上り

隊(真鶴)八年前一時的島水道 大之島南方面
面に於て 龍巻 教練 行ヒ 午前三時二十五分

終結之各艇(隊)佐世保に帰港 午前四時頃
大之島、東に渡り六里附近に於て友鶴、見失
南方

直に豊田に搜索を開始シ 追逐隊 亦二十一
富隊及飛行艇も加ハリ 極力搜索中、 廣 午後

二時 御神島燈台、南二里半に顯ニ覆漂流セシ
見致シタ、當時風向南南東、風力二十米、波高

朝の
有り
二回
カア
ス

約四米、雨視界、半馬ノ動揺、約四十度ニ達シタトノ
エトデアリマス、
竜田ノ直ニ曳取作業ニ取リカカリマス

推進器ニ曳索ヲ採リ佐世保ニ向ッテ曳取中デアリマス

乗員ハ甚士官以下六名下士官兵百七名デアリマスガ極

度ニ延交生存者ニ付テハ何等消息ヲ得テ居リマス又尚救助ノ為打掛

力捜索致シテ此ノ如クガ全郡行衛ス明デアリマス

先ニ早撤ノ難アリ又今回ノ遭難事候ク生シマス

誠ニ凡心懼措ク能ハズ所テ御座リマシテ之が対策同

シテハ協同研究ヲ致シマス不祥事ノ根絶ヲ覚悟

ナリマス
五道
ナキ
方
ナ
シ
マ
ス

テ
ナ
リ
マ
ス

事

重

起案異紙(2)



上 奏

昭和九年三月十三日

海

軍

(花崎納)

佐世保鎮守府司令長官ノ報告ニ基キ水雷艇友鶴遭難ニ付謹ンデ奏上
致シマス

佐世保警備隊所屬ノ龍田及第二十一水雷隊(真鶴)ハ同隊司令官
鈴木少將從率ノ下ニ十二日午前一時佐世保港外寺島水道發大立島南
方海面ニ於テ襲撃教練ヲ行ヒ午前三時二十五分之ヲ終結シ各艦(隊)
佐世保ニ歸港中午前四時頃大立島ノ南方六里附近ニ於テ友鶴ヲ見失
ヒ直ニ龍田ハ搜索ヲ開始シ次デ第二十一驅逐隊、第二十一水雷隊及
飛行艇モ加ハリ極力搜索中ノ處午後二時御神島燈臺ノ南二里半ニ頗
覆漂流セルヲ發見致シマシタ。當時風向南南東、風力二十米、波高
約四米、雨視界小、千鳥ノ動搖ハ約四十度ニ達シタトノコトデアリ

マス。龍田ハ直ニ曳航作業ニ取リカカリマシテ推進器ニ曳索ヲ採リ
 佐世保ニ向ツテ曳航中デアリマス
 乗員ハ准士官以上六名、下士官兵百七名デアリマスガ唯今迄ノ處生
 存者ニ付テハ何等消息ヲ得テ居リマセヌ。尙救難ノ爲特務艦朝日ハ
 吳ヨリ佐世保ニ回航中デアリマス
 先ニ早敷ノ遭難アリ又今回ノ事件ヲ生ジマシタルコトハ誠ニ恐懼措
 ク能ハザル所デ御座リマシテ之ガ對策ニ關シテハ萬遺憾ナキ方法ヲ
 講ジ此ノ如キ不祥事ノ根絶ヲ期スル覺悟デ御座リマス

0409

保期	3	20	永
関保	發付迄	完結迄	永

書類

昭和九年四月二日起案

起案者捺印

月

日發付

發付掛捺印

發付後起案者捺印

主務局、部取扱者捺印

起案者捺印

(通務) 軍務局長

副官

第一課長

局員

大臣

次官

書記官

友鶴遭難事件 査定ニ關シ奏上

謹ニテ友鶴遭難ノ原因及今後ノ対策ニ付テ奏

局、部	官、房	軍、務	人、事	教、育	軍、需	醫、務	經、理	建、築	法、務	航、空	艦、政	軍、令

番

五

五

上致シマス

友鶴遭難ノ翌十三日野村海軍大將ヲ委員
長トシニ十七名ヲ成ルル査問會ヲ組織致シマシ

海軍大將野村大將ニ
命ジマシタ

テ遭難ノ真相、原因及責任^{を詳スル}、~~帰結~~等ニ付調査
ヲ命ジマシタ^ル。委員ハ直ニ佐世保ニ急行シ友鶴

ノ実況調査、関係諸員ニ対スル取調等ヲ行ヒ
又友鶴ガ建造サレマシタ舞鶴要港部工作部

到リ建造経過ノ調査ヲ為シ最後ニ東京ニ於
キマシテ之ガ建造改造計畫関係ヲ詳細ニ調

起案罪紙(乙)(花崎納)

査致シマシタ結果去ル二日委員長ヲ報告ラ受
ケマシタノデ~~事~~般要ニ付御説明申上ゲマス

本件ニ関ス

下付スル取調

閣下諸記録及生存者ノ聴取等ヲ綜合シ判定

致シマスルニ友鶴ハ速カ十四ヤ距離約五・六百

百ヤ

米ニテ司令艇千島ニ繞航シ右後方ヲ来ル凡浪

ノ為一般ニ左舷ニ傾キ概ネ左右各三十度ノ動

揺ヲ為シツテ略直進中デアリマシタガ偶々波浪ノ

大ナル衝撃ヲ受ケ左舷ニ大傾斜ヲ為シ復原ノ

毎

電

2



海

軍

(ト推定されるノテアリマス)

力ナク其ノ供須更ニシテ顛覆シタルモノヲ御座リキ
當時ノ天候ハ風向南南東風力約二十米波ノ

高サ最大四米桐膏ノ荒天デアリマスガ訓練上
無理ト認ムル状況デアリマセヌ又場所ハ佐世

俘軍逸境域附近デアリマスガ唯現地ノ地形ト

水深ハ南方ヨリ来ル波濤ニ^{依り}複雑ナル三角波

ヲ生中^シ以ノ種小艦般ニトリテハ状況不良デアリ

トハ事實デアリマセ

三浦上ヶ原

右ノ事及友鶴ノ艦内調査ニ基キマシテ歟(回復ノ
原因ヲ各方面ヨリ検討致シマスルニ大角度ノ轉

舵ヲ為セン形跡ナク又防氷蘇甚モ閉鎖カレ移動
物モ確定ニ固縛セラレ居リ操艦上ニ於テモ保安

上ニ於テモ師等ノ過誤ヲ認メテ又辨艦長故海

軍少佐岩瀬國平ノ所年度ハ秋 駆逐艦長トシテ

此ノ事ハ経歴ニ加フルニ

執河討伐ノ際ハ北支方面ニ浩劫ノ特別木演習
ノ際ハ南方海面ニ行部ニ小艦艇ノ操縦ニ豊富

軍

艦

3

起案部紙(乙)(花時納)

ナル経験アリ加フルニ思慮綿密ノ性格ヲ有シテ居リ
マシタノデ以ノ人格ト技倆ヲ推シ右サレバ推シ更ニ

稟書ハル拜ルモノト認メマスサレバ友鶴ハル願ハル得ノ

主ナル原因ハ擧般及保安上ノ過誤ナク又ハル稀有ノ

荒天ニアラザリシニトシハル結局計畫上ノ不備ニ基

クモノト認メマシタ次チテ御座リマス 換言スレバ船

体、兵器機関ノ配置上重心点ノ位置高ク且重量

量ノ分布が適當デアリマセヌ關係上當時ノ凡浪

超案野紙(乙)(花崎納)

ニ於テ左舷ニ大傾斜起リシ際之ニ對抗スル復原力
が不足デアツタト謂フコトニ帰着致シマス 随ツテ今

次事件惹起ノ責任ハ左ニ依リ明由ナクモ其旨
該部隊ニ建造所側ニミナク主トシテ船般計畫

擔當ノ井井局ニアルコトヲ認メテ居リマスノテ責任
者ニ對シテハ相當ノ措置ヲ講スル積リテ御座リ

マス

但シ此ノ計畫上ノ不備ハ慢然ト生起シタノデアリマセ

毎

直

4

不^レ非常時局ニ際會シ制限噸數内ニテ戰鬥力諸要
事ヲ極力充足セントスル執心ニ充シ又建造中ニ於テ

上海事變等ノ教訓ヲ加味スルノ必要ニ迫ラレル等ノ
事情アリ自然艦ノ安定性ニ關スル見込過小ニ及

シマシクノテ計畫者ノ立場ニモ事情諒トス^{アリ}ハキ^ノト^ノ認
メテ居リマス

以上ノ如ク今次事件ノ真相ヲ明ニ致シマシクガ何レニ致
シマシクモ~~中~~當局ノ艦艇計畫上ノ不備ノ爲ニ早

起案部紙(乙)(花時納)

敵遭難ト略同一ノ状況ニ於テ多事多事ヲ將來
ヲ控キマセラル今日自名ノ殉職者ヲ出シタルコトハ

此ノ一極限ヲ指シテ

衷心恐懼指ク能ハサル所テ御座リマス

以ノ貴重ナル犠牲ニ依ル教訓ニ甚キ以ノ際如藤海

軍大將ヲ委員長トス臨時艦艇性能調査會ヲ組

織ニ改定未成ノ艦艇ノ安定性ニ関シ徹底的

調査検討ヲ致シテ欠陥アルモノハ急速之ヲ改造ヲ

定規ニ軍備ノ整備上必要ニ支障ナカラシムルト共

以上上下関係ハ一ノ際ニ注意セラル

重

重

✓

ニ船艇ノ安定性ニ関スル疑惑ヲ一掃シ益々内容ヲ充
實シ國防ノ要責ニ付シテ萬遺憾ナカラシムトシ期
山内良

スル覺悟デ御成リマス 木老郎陛下ノ御偉業
尊イテ覺悟デ御成リマス

之ヲ込テ考エ上ラ然リマス



友鶴遭難事件ニ關シ奏上

九一四一四

海

軍

二色納

謹ミテ友鶴遭難ノ原因及今後ノ對策ニ付テ奏上致シマス
 友鶴遭難ノ翌十三日海軍大將野村吉三郎ヲ委員長トシ二十七名ヨリ
 成ル査問會ヲ組織致シマシテ遭難ノ真相、原因及之ニ對スル責任等
 ニ付調査ヲ命ジマシタ委員ハ直ニ佐世保ニ急行シ友鶴ノ實況調査、
 關係諸員ニ對スル取調等ヲ行ヒ又友鶴ガ建造サレマシタ舞鶴要港部
 工作部ニ到リ建造經過ノ調査ヲ爲シ最後ニ東京ニ於キマシテ之ガ建
 造改造計畫關係ヲ詳細ニ調査致シマシタ結果去ル二日委員長ヨリ報
 告ヲ受ケマシタノテ本件ニ關スル概要ニ付御説明申上ゲマス
 關係諸記録及生存者ニ對スル取調等ヲ綜合シ判定致シマスルニ友鶴

ハ速力十四節距離五百乃至六百米ニテ司令艇千鳥ニ續航シ右後方ヨリ來ル風浪ノ爲一般ニ左舷ニ傾キ概ネ左右各三十度ノ動搖ヲ爲シツツ略直進中デアリマシタガ偶々波浪ノ大ナル衝擊ヲ受ケ左舷ニ大傾斜ヲ爲シ復原ノ力ナク其ノ儘須臾ニシテ顛覆シタルモノト推定セラルルノデアリマス當時ノ天候ハ風向南南東風力約二十米波ノ高サ最大四米相當ノ荒天デアリマスカ訓練上無埋ト認ムル狀況デアアリマセヌ又場所ハ佐世保軍港境域附近デアリマスカ唯現地ノ地形ト水深ハ南方ヨリ來ル波濤ニ依リ複雑ナル三角波ヲ生ジ此ノ種小艦艇ニトリテハ不良ノ狀況デアリマシタ

右ニ申上ゲマシタコト及友鶴ノ艦内調査ニ基キマシテ顛覆ノ原因ヲ各方面ヨリ検討致シマスルニ大角度ノ轉舵ヲ爲セシ形跡ナク又防水

扉蓋モ閉鎖セラレ移動物モ確實ニ固縛セラレ居リ操艦上ニ於テモ保
 安上ニ於テモ過誤アリシトハ認メラレマセヌ此ノコトハ艇長故海軍
 少佐岩瀬奥市ノ過去ノ經歷ニ加フルニ昨年度ハ萩驅逐艦長トシテ熱
 河討伐ノ際ハ北支方面ニ活動シ特別大演習ノ際ハ南方海面ニ行動シ
 小艦艇ノ操縦ニ豊富ナル經驗アリ加フルニ思慮綿密ノ性格ヲ有シテ
 居リマシタノデ此ノ人格ト技倆トヨリ推シ右推斷ヲ更ニ裏書スルモ
 ノト認メマス

蓋シ友鶴頭覆ノ主ナル原因ハ操艦及保安上ノ過誤アリシトハ認メラ
 レズ又當時ノ海象カ此ノ種艦艇ニトリ不良ナリシト雖モ稀有ノ荒天
 エアラザリシコト及工學ノ道程ニ於テ缺陷ナカリシコトニ鑑ミ結局
 計畫上ノ不備ニ基クモノト認メマシタ次第デ御座リマス換言スレバ

船体、兵器、機關ノ配置上重心點ノ位置高ク且重量ノ分布ガ適當デアリマセヌ關係上當時ノ風浪ニ於テ左舷ニ大傾斜起リシ際之ニ對抗スル復原力ガ不足デアツタト謂フコトニ歸着致シマス隨ツテ今次事件惹起ノ責任ハ右ニ依リ實施部隊ニモ建造所側ニモナク主トシテ艦艇計畫擔當ノ當局ニアルコトヲ認メテ居リマスノデ責任者ニ對シテハ相當ノ措置ヲ講ズル積リテ御座リマス

但シ此ノ計畫上ノ不備ハ慢然ト生起シタノデアリマセズ非常時局ニ際會シ制限噸數内ニテ戰鬥力諸要素ヲ極力充足セントスル熱心ニ發シ又建造中ニ於テ上海事變等ノ教訓ヲ加味スルノ必要ニ迫ラルル等ノ事情アリ自然艦ノ安定性ニ關スル見込過小ニ失シマシタノデ計畫者ノ立場ニモ事情諒トスベキモノアリト認メテ居リマス

以上ノ如ク今次事件ノ真相ヲ明ニ致シマシタガ何レニ致シマシテモ當局ノ艦艇計畫上ノ不備ノ爲ニ早敷遭難ト略同一ノ状況ニ於テ多事多端ノ今日 陛下ノ艦船ヲ損傷シ又百名ノ殉職者ヲ出シマシタルコトハ衷心恐懼措ク能ハザル所デ御座リマス

此ノ貴重ナル犠牲ニ依ル教訓ニ基キ此ノ際海軍大將加藤寛治ヲ委員長トスル調査會ヲ組織シ既成未成ノ艦艇ノ安定性ニ關シ徹底的調査検討ヲ致シマシテ缺陷アルモノハ急速之ガ改造ヲ實施シ計畫上ノ不備アルモノハ其ノ計畫ヲ改メ軍備ノ整備上支障ナカラシムルト共ニ艦艇ノ安定性ニ關スル疑惑ヲ一掃シ益々内容ヲ充實シ國防ノ重責ニ任ジテ萬遺憾ナカラシムコトヲ期スル覺悟ヲ御座リマス

之ヲ以テ奏上ヲ終リマス

友鶴遭難ニ付
（北三河出帆後）
議會説明資料

佐世保鎮守府司令長官ヨリノ報告ニ基キ水雷艇友鶴遭難ノ概要ヲ申上ゲマス

佐世保警備戦隊所屬ノ軍艦龍田ト第二十二水雷隊（千鳥友鶴）ハ同戦隊司令官統率ノ下ニ十

一日夜半佐世保港外ニ於キマンテ訓練實施中
十二日午前四時頃友鶴ハ本隊ト分離消息ヲ絶

海軍

英道全葉十三行算紙

ツニ至ツタノデアリマス

當時風力二十米、風向南々東、時々大ナル長濤が

アリ降雨ノ為視界ハ狭少デアフタトノコトデアリ
マス

司令官ハ右ノ報告ヲ受領シマスルヤ僚艇千鳥
ハ直ニ附近ノ寺島水道ニ避泊セシメ龍田ヲ以テ

搜索セシメマスル一方佐世保ヨリ派遣シタル驅逐
艦ヤ飛行機ト協同シマシテ附近海面ヲ搜索

致シマシタル結果午後二時志自伎埼ノ南方約

(富井絶)

五湮ノ地矣ニ於キマシテ友鶴ガ顛覆シテ漂流

中ナルヲ發見シ龍田ヲ以テ佐世保軍港ニ曳航
十三日午前七時佐世保港内庵崎附近着艦

内生存者アルヲ確メ得マシタノデ人員救出ニ全
カヲ盡スコトトシ水船ヲ以テ浮力ヲ與ヘ艇内ニ

空氣及食料ヲ送り午後零時二十分生存者三
名ヲ救出スルヲ得マシタ午後八時十分第五船

渠ニ入渠セシメ艦底ヲ切開シ今朝迄ニ下士官兵
十名合計十三名ヲ救出シ死体十七ヲ收容致シマ

毎

頁

英遺全集十三行野紙

シタ一方友鶴遭難以來佐世保警備戦隊ノ
艦艇、防備隊附属艦船及航空機ヲ以テ港外
及平戸島五島列島トノ中間海面海岸ヲ極力
搜索乗員ノ發見ニ努メツツアリマスガ未ダ何
等ノ手懸リナク殉職者多數デアリ見込
デアリマシテ眞ニ痛惜ノ至リニ堪ヘマセヌ

今回ノ事件ノ原因ハ尚詳デアリマセヌガ一昨年
ノ早蕨遭難ニ鑑ミ復原力等ニ関シマシテモ慎

重研究シテ既ニ諸般ノ對策ヲ實施シテ參ソ
 タノデアリマスが今又此ノ事件ヲ惹起シマシタルコ
 トハ誠ニ遺憾至極デアリ恐懼ニ堪ヘザル所デア
 リマス

就キマシテハ昨日ヲ以テ野村大將ヲ委員長トス
 ル査問委員會ヲ組織致シマシテ本事件ノ原
 因其ノ他ニ付權威アル調査ヲ行ハシメルコトト
 致シマシタ之ニ依リマシテ速ニ必要ナル諸般ノ
 對策ヲ講ジ将来寸毫ノ遺憾ナキ様期スル

英道全集十三行好紙

毎

頁

0429

覺悟デアリマス

洋

宣

(終)

(封納)

友鶴遭難ニ付

議會說明資料

佐世保鎮守府司令長官ヨリノ報告ニ基キ水雷艇友鶴遭難ノ概要ヲ申上ゲマス

佐世保警備戦隊所屬ノ軍艦龍田ト第二十二水雷隊(千鳥友鶴)ハ同戦隊司令官統率ノ下ニ十

一日夜半佐世保港外ニ於キマシテ訓練實施中
十二日午前四時頃友鶴ハ本隊ト分離消息ヲ絶

英海軍第十三行録紙

海

軍

ソニ至ツタノデアリマス

當時風力二十米、風向南々東、時々大ナル長濤ガ
アリ降雨ノ為視界ハ狭少デアツタトノコトデアリ
マス

司令官ハ右ノ報告ヲ受領シマスルヤ僚艦千鳥
ハ直ニ附近ノ寺島水道ニ避泊セシメ龍田ヲ以テ

搜索セシメマスル一方佐世保ヨリ派遣シタル驅逐
艦ヤ飛行機ト協同シマシテ附近海面ヲ搜索

致シマシタル結果午後二時志自伎埼ノ南方約

(富井納)

五湮ノ地矣ニ於キマシテ友鶴ガ顛覆シテ漂流

中ナルヲ發見シ龍田ヲ以テ佐世保軍港ニ曳航
十三日午前七時佐世保港内庵埦附近着艦

内生存者アルヲ確メ得マシタノデ人員救出ニ全
カヲ盡スコトトシ水船ヲ以テ浮力ヲ與ヘ艇内ニ

空氣及食料ヲ送り午後零時二十分生存者三
名ヲ救出スルヲ得マシタ 午後八時十分第五船

渠ニ入渠セシメ艦底ヲ切開シ今朝迄ニ下士官兵
十名合計十三名ヲ救出シ死体十七ヲ收容致シマ

英領全葉十三頁野紙

シタ一方友鶴遭難以來佐世保警備戦隊ノ
艦艇、防備隊附属艦船及航空機ヲ以テ港外
及平戸島五島列島トノ中間海面海岸ヲ極力
搜索乗員ノ發見ニ努メツツアリマスガ未ダ何
等ノ手懸リナク殉職者多數デアル見込デアリ
マシテ眞ニ痛惜ノ至リニ堪ヘマセヌ

今回ノ事件ノ原因ハ尚詳デアリマセヌガ一昨年
ノ早蕨遭難ニ鑑ミ復原力等ニ関シマシテモ慎

重研究シテ既ニ諸般ノ對策ヲ實施シテ參ッ
 タノデアリマスか今又此ノ事件ヲ惹起シマシタルコ
 トハ誠ニ遺憾至極デアリ恐懼ニ堪ヘザル所デア
 リマス

就キマシテハ昨日ヲ以テ野村大將ヲ委員長トス
 ル査問委員會ヲ組織致シマシテ本事件ノ原

因其ノ他ニ付權威アル調査ヲ行ハシメルコトト
 致シマシタ之ニ依リマシテ速ニ必要ナル諸般ノ

對策ヲ講ジ将来寸毫ノ遺憾ナキ様期スル

0435

御見悟
デアリマス

終

(富井 稿)

借免

0436

友鶴遭難

友鶴遭難ニ付

議會説明資料

九三一三

米沢

佐世保鎮守府司令長官ヨリノ報告ニ基キ水雷艇友鶴遭難ノ概要ヲ申上ゲマス

佐世保警備戦隊所屬ノ軍艦龍田ト第二十一水雷隊(千鳥、友鶴)ハ同戦隊司令官統率ノ下ニ

十一日夜半佐世保港外ニ於キマシテ訓練實施中十二日午前四時頃友鶴ハ本隊ト分離消

海軍

英貞全集十三行野紙

息ヲ絶ツニ至ツタノデアリマス

當時風力二十米、風向南々東時々大ナル長溝

ガアリ降雨ノ為視界ハ狭シデアツタトノコトデア
リマス

司令官ハ右ノ報告ヲ受領シマスルヤ僚艇千
鳥ハ直ニ附近ノ寺島水道ニ避泊セシメ龍田ヲ

以テ搜索セシメマスル一方佐世保ヨリ派遣シタル
駆逐艦ヤ飛行機ト協同シマシテ附近海面ヲ搜

索致シマシタル結果午後二時志自岐埼ノ南方

(富井館)

約五哩ノ地莫ニ於キマシテ友鶴ガ顯覆シテ漂

流中ナルヲ發見シ~~申~~龍田ヲ以テ佐世保軍港
ニ曳船午前七時庵埵附近着艦内生存者ア

ル見込ニテ差當リ之ガ收容作業中デアリマス
當時ノ情況ヨリ推シマシテ殉職者多數デアル見

込デアリマシテ眞ニ痛惜ノ至リニ堪ヘマセヌ
今回ノ事件ノ原因ハ尚詳デアリマセヌガ昨年

早蕨遭難ニ鑑ミ復原力等ニ関シマシテモ慎重
研究シテ既ニ諸般ノ對策ヲ實施シテ參ソタノ

英漢全業十三行辨紙

アリマス	速ニ必要ナル	對策ヲ執リ	將來寸毫	テアリマスガ	今又此ノ事件ニ	惹起シ	マシタルコ
ノ遺憾	ナキ様	期スル	覺悟デアリマス	トハ	遺憾至極	デアリ	恐懼ニ堪ハザル
							所デア

(富井鈔)

0440

今表

0441

軍務局

海軍省

第一海軍省公表

局 昭和九年三月十三日午後零時五十分發表

友鶴後部ニ生存者アル見込ニテ之ガ救出作業ヲ急ギツツアリ

(終)

海軍 (花崎)